

三熊会バス旅行の報告

10月5日(金)新潟県魚沼市・南魚沼市に点在する石川雲蝶の彫刻を鑑賞するバス旅行に行ってきました。
今回は三熊会の旅行とハイキング同好会のイベントを兼ねて行き、「日本のミケランジェロ」と称される「石川雲蝶」の彫刻を身近に鑑賞する旅を、30名の参加で実施し、「龍谷寺」、「永林寺」、「西福寺」の三ヶ寺を巡り、素晴らしい彫刻群に目を見張り、良い体験をしてきました。

45人乗りの大型バスにてまずは龍谷寺へ



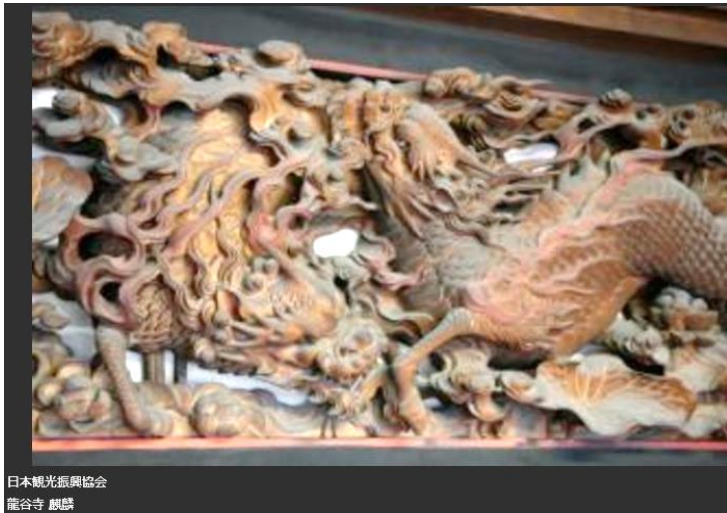
龍谷寺本堂横の建物、慈雲閣
観音堂はインド「グプタ王朝」
様式で建てられ、ハワイの日系
移民の浄財で寄贈された観音
像や開運十一面観音像が安置
されていました。



「龍谷寺」は曹洞宗 八海山「龍谷寺」と称し、約一千年の歴史があり、八海山信仰の修験道場「六萬寺」として栄えた。16世紀初めに曹洞宗に改宗のため龍谷寺と改称し、現在に至るとのこと。

龍谷寺本堂には、石川雲蝶による透かし彫りの欄間があり、猿(ばく)や麒麟(きりん)、そして牡丹と唐獅子が、見事な彫り物としてありました。

(彫刻、欄間写真は、観光協会のHPより)



日本観光振興協会
龍谷寺 麒麟



日本観光振興協会
龍谷寺 葡萄、朝顔

本堂欄間の麒麟

室中欄間の葡萄、朝顔

余談ですが、バス内でのクイズは「8頭」が正解。(資料で確認済)

麒麟:2頭、猿:2頭、獅子(牡):2頭、獅子(牝):2頭

続いて魚沼市の「永林寺」へ。

本寺は曹洞宗 針倉山「永林寺」と称し、五百有余年の歴史があり、松平忠直公(家康の孫)、光長公(忠直の子)の位牌が安置され、葵の紋章が許された寺。

雲蝶は永林寺に13年間滞在し、100点以上の作品を残しているとのこと。

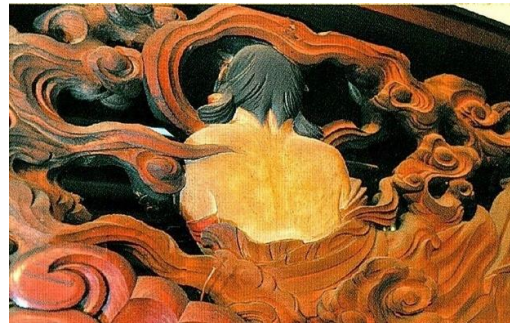
厚さ20cm以上の木材に彫刻を施し、背面側にも彫刻を施し、色彩豊かで、力強さと繊細さを併せ持った作品でした。



永林寺本堂



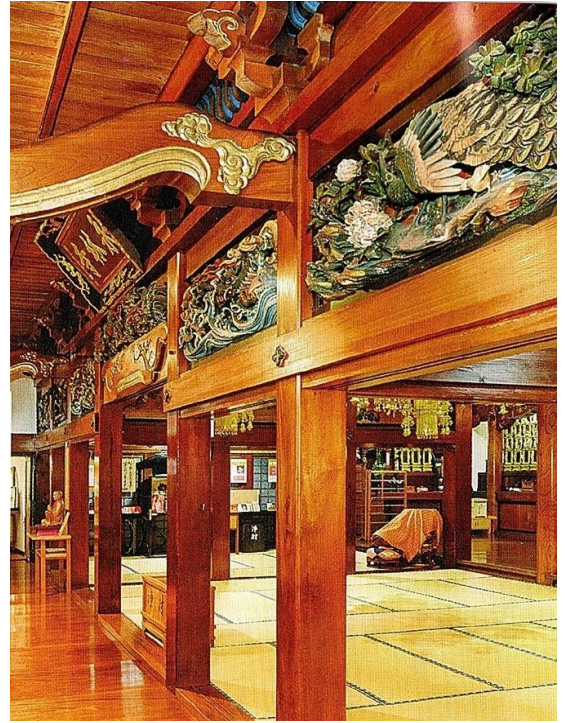
永林寺 天女像の彫刻
(彫刻、欄間写真は、観光協会のHPより)
モデルは雲蝶の好きな人との事



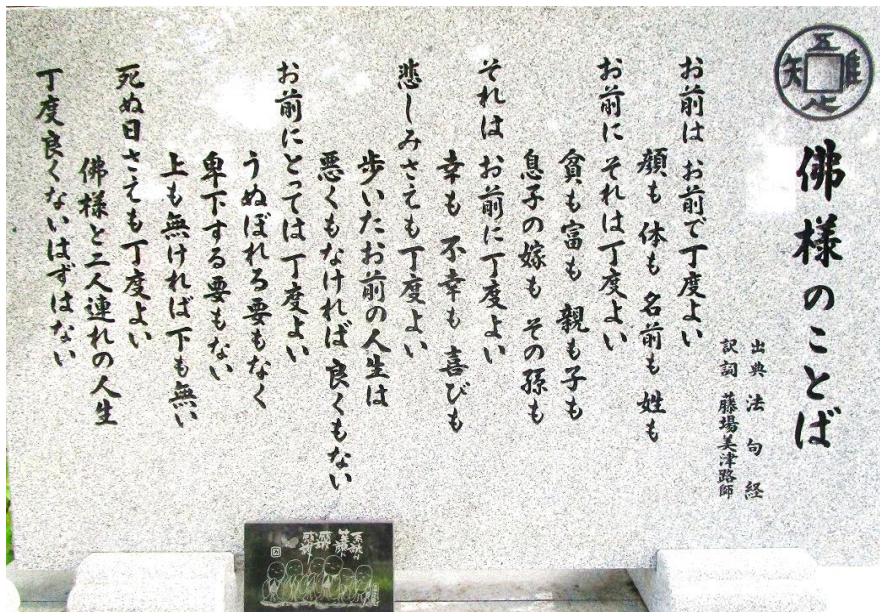
若い(?)天女の背
中の彫刻

本堂全景

(パンフレットより複写)



永林寺本堂前にて集合写真撮影



永林寺の境内には「佛様のことば」として、すべてのことが「丁度よい」で締められている石碑があり、この先の人生は、このように達観して生きることが重要なかな？と思われました。



バスに乗り込み、昼食会場へ移動。

昼食は「深雪の里」のレストランで・・・



あらかじめお願いしておいた料理で、お刺身、天婦羅、焼き物、煮物などまずまずの内容かな？



約1時間の休憩の後、三つ目のお寺「西福寺」に向かいました。

本寺は、曹洞宗 赤城山「西福寺」と称し、室町時代後期1534年に開山、曹洞宗の開祖道元禅師を祀って、1857年に開山堂が建てられた。

「越後の日光」と呼ばれる開山堂には、雲蝶が手掛けた彫刻・絵画など配置され、すべてが新潟県の指定有形文化財となっています。

開山堂の吊り天井には「道元禅師猛虎調伏の図」が透かし彫りで施された彫刻があり、岩絵の具で彩色されて迫力満点のものでした。



鮮やかで繊細「道元禅師猛虎調伏の図」

(彫刻、欄間写真は、観光協会のHPより)



雲蝶が描いた本堂の襖絵「孔雀遊戯の図」

法堂脇の襖絵「孔雀遊戯の図」

欄間の透かし彫り「道元禅師と白山大権現」は見事な遠近法が用いられ、どうやって彫ったのか、不思議に思えてなりません。



開山堂欄間「道元禅師物語」



開山堂全景
修復時に使用した鉄骨組の覆いをそのまま「覆い屋根」として使用



西福寺 開山堂前にて集合写真

途中、道の駅「ゆのたに」の鮮魚センターおよびスイーツガーデンにより、皆さんそれぞれに「お土産」を買い、帰途につきました。



バス後方の道の駅の標識塔が丁度バスのつり下げフックのように見えました！！



鮮魚センター



皆さん、少々お疲れの様子？



スイーツガーデン

当日朝の予報では、曇り、夕方雨か、となっていました。現地に到着した時には、薄日が差してきて、旅行には最適の気候となりました。今回の「石川雲蝶」の彫刻を鑑賞する旅、皆さんには「雲蝶の彫刻・絵画」の素晴らしさを、報告書の写真では再現できないくらい目に焼き付けて頂けたと確信しています。

素晴らしいものに感動して頂けたこと、また久々の三熊会の仲間と親睦を深めて頂いたものと思います。

ご参加いただいた30名の方々、また幹事の吉田さん、小原さん、原案を提案して頂いた難波さんのふる伝の方々、ありがとうございました。担当幹事の一員として皆さんのご協力に感謝致します。

(記： 加藤 治朗)